

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名: 山口・防府保健医療圏

対象医療機関名: かしだ産婦人科クリニック

資料 4 - 2

1 地域の状況			
地域の現状と課題		山口地区の出生数は年々減少傾向であり、他医院含め分娩件数が今後更に減少していくことが考えられる。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		分娩件数減少により病床利用率が低下している。スタッフ数も確保・定着が難しく減少しており、看護度や患者サービスの低下が懸念される。軽症のコロナ感染妊婦を自院で管理するために、隔離病室の確保、感染予防のためのレイアウトの見直しの必要が出てきた。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	急性期5床を削減とする削減理由は、 ①助産師・看護師の確保・定着が難しく減少しており、看護度やサービスの低下が懸念されるため ②軽度のコロナ感染妊婦を自医院で管理するための隔離病室の確保のため	
	対象の病棟・病床の概要	削減する病床は、急性期5床であり令和7年6月1日より削減。	
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり ・ 協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由		削減後の残り14床は、5床削減分+出生件数の低減により看護師等のマンパワー不足の補い分となることで、継続的な入院医療を提供できるものとする	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期		計
高度急性期						
急性期			△ 5	R7.6月		△ 5
回復期						
慢性期						
合 計			△ 5			△ 5

【参考: R6病床機能報告(山口保健医療圏の状況)】

病 床 区 分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・ 廃止予定	合計
報告	①R6 (2024)現状	493	1,171	671	829	129	3,293
	②R7 (2025)予定	505	1,136	821	736	95	3,293
構想	③R7 (2025)必要数	275	974	899	860		3,008
④構想との差(R6) (①-③)		218	197	△ 228	△ 31	129	285
⑤構想との差(R7) (②-③)		230	162	△ 78	△ 124	95	285

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名: 山口・防府保健医療圏

対象医療機関名: 総合病院山口赤十字病院

1 地域の状況				
地域の現状と課題		山口・防府医療圏では、地域医療構想における必要病床数は、令和6年度病床機能報告と比較すると、高度急性期は218床、急性期病床は197床、過剰となっている。人口減少・高齢化に伴う中長期的な患者像の変化に対応するため、これらの病床の適正化が課題となっている。		
2 自施設の状況				
自施設の現状 (変更前)		当院は、高度急性期117床(うち休床6床)、急性期260床(うち休床27床)を保有している。急性期病床の休床病床は、COVID-19対応の専門病床として運用し、COVID-19の感染症法上の取り扱い変更後には、一般病床として再開をすることとしていたが、病院全体の病床稼働率の低下や、夜勤看護師等の人材確保が困難な状況により、再開の目処がたっていない。 こうした中、病院全体の人的資源をはじめとする経営資源の最適化を図る必要が生じている。		
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	高度急性期9床(東6階病棟(54床を9床削減)) 急性期41床(東4階病棟54床を29床、東5階病棟53床を7床、東7階病棟55床を5床、それぞれ削減) 削減理由は、 ①看護師等の人材不足に応じた適正な人員配置の確保 ②執務環境の整備による医療従事者の持続可能な働き方の確保 ③病床稼働率の改善		
	対象の病棟・病床の概要	東4階病棟:急性期病床で旧COVID-19専用病棟、54床のうち現在27床は令和5年6月1日より休床しており、残りの27床は東3階病棟の一部として運用しているが、患者数の減少により稼働していない状況。こうしたことから、東3階～7階全体を病床再編し、最適化を図る。 東3階病棟:急性期病床 産婦人科の患者を中心に診療 東4階病棟:急性期病床 上述のとおり(旧COVID-19専用病棟) 東5階病棟:急性期病床 整形外科の患者を中心に診療 東6階病棟:高度急性期病床 外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科の患者を中心に診療 東7階病棟:急性期病床 眼科、外科、小児科の患者を中心に診療		
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり 協定なし	
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	医療措置協定における確保病床数(20床)については、現有する病床(327床)全体の中で、状況に応じて確保することとしており、影響はない。	
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由				
理由		主として削減する東4階病棟は、休床または稼働していない病床を削減するものである。また、削減後の残り327床に適正な人員配置をすることで、入院医療の継続に支障はないものとする。		

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期		計
高度急性期			△ 9	9月1日		△ 9
急性期			△ 41	9月1日		△ 41
回復期						
慢性期						
合 計			△ 50			△ 50

【参考:R6病床機能報告(山口保健医療圏の状況)】

病 床 区 分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・ 廃止予定	介護保険施設 移行予定	合計
報告	①R6 (2024)現状	493	1,171	671	829	129		3,293
	②R7 (2025)予定	505	1,136	821	736			3,198
構想	③R7 (2025)必要数	275	974	899	860			3,008
④構想との差(R6) (①-③)		218	197	△ 228	△ 31	129		285
⑤構想との差(R7) (②-③)		230	162	△ 78	△ 124			190

対応方針（2025プラン）の変更（総合病院山口赤十字病院）

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容					備考 （対応方針の実 施予定時期等）
機能 区分	R6 現在	R7 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行	変更後	
高 度 急性期	117	117	・高度急性期・急性期機能を担う。 ・地域医療支援病院、地域周産期母子医療セン ター、小児救急拠点病院としての機能を有す る。	・山口市域における公的な基幹病院、地域医療 支援病院として、高度急性期・急性期医療、とり わけ小児救急を含む救急医療について、持続 的・安定的に提供する役割を担う。 ・脳血管疾患患者への対応、周産期医療及び女 性医療、がん診療、高齢化社会に対応した医療 機能などの役割を担う。 ・将来の医療需要を見据えるとともに、医師・ 看護師等の限られた医療資源を最大限効率的に 活用するため、高度急性期病床9床、急性期病 床41床の削減を行い、当院の担う役割を継続的 効率的に果たしていく。	高 度 急性期	117	<u>108</u>	令和7年9月実 施予定
急性期	260	260			急性期	260	<u>219</u>	
回復期					回復期			
慢性期					慢性期			
休 棟					休 棟			
合 計	377	377			合 計	377	<u>327</u>	

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名: 山口・防府医療圏

対象医療機関名: 山口若宮病院

1 地域の状況			
地域の現状と課題		令和6年の病床機能報告では、慢性期の令和7年必要数に予定が31床のマイナスとなっているが、コロナ以降の受診率低下に加え、山口県は生産年齢人口だけではなく65歳以上の高齢者人口も減少局面に入っており、今後の山口防府圏域の必要病床数にも変化があると予想される。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		コロナによる入院患者数の減少と職員の減少に伴い、令和5年に慢性期(医療療養病床)1病棟57床を休床。近年、職員の確保・定着が難しく休棟病床の再稼働の目途がたたない。病床利用率も低下傾向にあった中で、病院全体の人的・物的資源の最適化を行ってきた。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	慢性期18床を削減する 【削減理由】 ①職員の確保が難しく、病棟を再稼働できるだけの採用の目途がたたない。 ②限られた人的資源で、業務効率化・稼働率向上を図る必要があるため。	
	対象の病棟・病床の概要	削減する病床は慢性期18床で、令和5年5月より休床している病床の一部である。	
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり ・ 協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由		令和5年の休棟以降、116床での稼働においても病床利用率には余裕があり、新規入院患者の受け入れに問題はない。限られた医療人材を地域の中で適切に活用するためにも、適正病床数で慢性期病床の役割を持続的に果たすことが今後の地域医療構想において重要と考える。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期		計
高度急性期						
急性期						
回復期						
慢性期			△ 18	R7.9.30		△ 18
合 計			△ 18			△ 18

【参考: R6病床機能報告(山口保健医療圏の状況)】

病床区分	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床・ 廃止予定	介護保険施設 移行予定	合計
報告	①R6 (2024)現状	493	1,171	671	829	129	3,293
	②R7 (2025)予定	505	1,136	821	736		3,198
構想	③R7 (2025)必要数	275	974	899	860		3,008
④構想との差(R6) (①-③)		218	197	△ 228	△ 31	129	285
⑤構想との差(R7) (②-③)		230	162	△ 78	△ 124		190

対応方針（2025プラン）の変更（山口若宮病院）

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容					備考 （対応方針の実 施予定時期等）
機能 区分	R6 現在	R7 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行	変更後	
高 度 急性期			・ 慢性期機能を担う。	・ 急性期、地域包括ケア病棟、回復期リハの受 け皿となる。 ・ 地域における慢性期として継続する。	高 度 急性期			令和7年9月 末予定
急性期					急性期			
回復期					回復期			
慢性期	173	116			慢性期	173	<u>155</u>	
休 棟	0	57			休 棟			
合 計	173	173			合 計	173	<u>155</u>	